

後カムサスカ國土人ヲロシヤ國に伏從せしは、日本享保年間に其盟ありてより、今に到りて然り、此頃より東蝦夷地島々の東海を、セイウエレヲラストシウエと名け、西海をベンシユンモヲレヤウと名付たり、其以後官船涉來して開業をなす事盛ん也、此ベンシユンモウレヤウへ落來る大河有、此落口は大港にしてラポツカといふ、日本享保年間に、奥州南部佐井町商人竹内徳兵衛といふ者漂著せし處也。

〔蝦夷志〕北。蝦夷。即奥。蝦夷。夷。中。呼之曰カラト。

北蝦夷、其俗與蝦夷同、夷人亦皆濱山海居、部落凡二十二。○中

東際大海、西北乃韃靼、東南海、兩地相去近遠不可得詳、厥產青玉、鵬羽、雜之以鱗、級文、繒、綺、帛、即是漢物、其所從來、蓋道韃靼地方而已、萬國圖中、東室韋地曰野作者、疑此也、凡南北接壤、但隔小海、而波濤險惡、夷中亦稱畏途、且其地絕遠、此間之人到者鮮少、不能閱歷而知之、故其間廣狹亦不可考。

〔本田利明異國話〕松前より西蝦夷陸地を経て海邊に距り、ソウヤと言所あり、此所より海上凡十里を隔て唐太島あり、此島殊に大島なり、松前所在島よりは勝れる大島也と云、此島を日本に西奥蝦夷と言なり、北極出地凡四十五度なり、依之百草百穀豐饒の國と成べし、ムスクバ或山丹に奪れぬ様にありたきもの也。

〔蝦夷東西考證上〕西蝦夷。

蝦夷の西の海際なる宗谷より、船路二十里に足らずして、蝦夷拾遺には、此船路を十五里といひ、地圖には十八里といひ、加良敷登洲に到る、此洲國最も廣くて、南北の亘は二百里に餘り、東西は百里に近しといへり、其狭き地にては廿五里、東蝦夷の來莫後、江澤府潤津生等の島に對へれば、是を西蝦夷といふ、○中、此加良敷登洲を外國の夷等は薩哈連、○又沙哈里と云、これは於魯志耶國の